

# 社会資本総合整備計画

## 若泉地区都市再生整備計画

平成 26 年 3 月 28 日

埼玉県本庄市

都市再生整備計画(第5回変更)

わかいずみ ち く  
若泉地区

さいたまけん ほんじょう し  
埼玉県 本庄市

平成26年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	ほんじょうし 本庄市	地区名	わかいずか 若泉地区	面積	173 ha
計画期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度	交付期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度				

<b>目標</b>
<p><b>大目標:豊富な地域資源を活用した活力に満ちた現代版「若泉の荘」の創出</b></p> <p><b>目標1:旧市民プールの再生による市民一人1スポーツの推進。</b></p> <p><b>目標2:リバーサイドコンビネーションパーク整備計画のコンセプトを踏まえた安全かつ快適な公園環境づくり。</b></p> <p><b>目標3:水環境、緑環境の一層の向上や歴史文化の啓発による地域環境の充実。</b></p>

<b>目標設定の根拠</b>
<p><b>まちづくりの経緯及び現況</b></p> <p>本市は、平成18年に旧本庄市と旧児玉町の合併に伴い、新たな「本庄市」としてスタートを切った。新市の目指す姿を定めた「本庄市総合振興計画」においては、市内に存する貴重な自然を活用した「水と緑のネットワーク」の構築や、市民一人一人が、生涯にわたるスポーツに親しめる環境づくりを目指す「市民一人1スポーツ」などを目標として掲げている。</p> <p>本地域は、豊かな緑を残す段丘崖が東西に続き、その崖下からは清らかな水が湧き出していることから「若泉の荘」と呼ばれ、永く地域の人々に親しまれてきた。しかしながら、地域の変遷により、豊かな湧水は失われ、これを源流としていた清流「元小山川」も雑排水の混入等の影響もあり水質が悪化した。これを受け、平成5年に元小山川流域生活排水対策推進協議会が設立され、元小山川を以前の清流に戻すべく活動を開始し、平成13年には、第二期水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンスⅡ)の対象河川として選定された。現在も地域住民と行政が一体となり水質改善に取り組んでおり、徐々にその成果が出てきている。また、段丘崖についても「本庄市緑のマスタープラン」並びに「本庄市緑の基本計画」において、市内の緑の骨格をなす重要なエリアとして指定し、保全と創出を行っている。</p> <p>本地域では、昭和58年に元小山川沿いの城下公園、若泉第一、第二、運動公園といった公園緑地等の一体的活用を図るための整備方針として「本庄リバーサイドコンビネーションパーク整備計画」を策定した。具体的な内容としては、「四季」、「連続景観」、「賑わい」をテーマに、計画地を敷地の特性にあわせて5つの地区に区分し、地区ごとに特色を持たせた整備を実施して一体的な活用の促進を図ることを目的とするもので、この計画を踏まえて各公園の再整備を実施したほか、新たな公園として本庄ふさとプラワーパークを整備している。</p> <p>若泉運動公園は、昭和46年に設置されて以降、市民のスポーツやレクリエーションの拠点として活用されており、面積8haの公園敷地の中には、グラウンドや武道館、弓道場が整備されている。中でも、2.3haと園内最大規模の施設で、地域のシンボルでもあった本庄市民プールについては、約40年もの間、市民のみならず近隣市町村の方々にも親しまれてきたが、入場者が大幅な減少傾向にあったことや、経年による劣化が進行したこと等の要因から平成18年度に閉鎖措置を取っている。</p> <p>本庄市と早稲田大学とは、協働連携に係る包括協定を締結している。平成21年に、サッカーリーグ初代チェアマンである川淵三郎氏が早稲田大学の特命教授に就任し、市の掲げる「市民一人1スポーツ」という目標と、川淵氏の理念である「地域密着型スポーツ社会の実現」が合致したことから、市のスポーツ振興を考えることを目的とした「川淵三郎塾」が設置された。</p> <p>本地域では春には公園の桜が満開となり、遠方から見物に訪れる方も多い。平成21年度からは本庄市観光協会が主体となり第1回桜まつりを実施した。また、秋には公園指定管理者による本庄公園まつりが平成19年度より開催されており、多くの人々に賑わっている。</p> <p>江戸時代より中山道「本庄宿」として栄えた本庄は、街道の両脇に蔦竹買商や蔦竹問屋が立ち並び蔦市場として隆盛を極め、周辺に大きな養蚕地帯も抱えていたため、蔦と絹の一大集散地となり、明治期には製糸工場も進出するなど「養蚕と絹のまち」と呼ぶにふさわしい都市となった。本地域には、養蚕と製糸業隆盛の一大中心地となった本庄が、日本の近代化に大きく役割を果たした時期の遺構として、本庄市にとっても数少ない近代的な建築様式である建造物が残っている。</p>
<b>課題</b>
<p>本地域のシンボルであった旧市民プールの再生…上記のとおり閉鎖措置を取っている市民プールであるが、「市民一人1スポーツ」の推進の為に、市内のスポーツの拠点である若泉運動公園における核となる施設として早急に再生を図る必要がある。</p> <p>整備計画のコンセプトを踏まえた誰もが使いやすい公園環境の整備…元小山川に沿って点在する公園を動線で結び、一体的な活用を図るリバーサイドコンビネーションパーク整備計画であるが、このコンセプトは踏まえたうえで、計画当時に配慮されていないユニバーサルデザイン等の概念を取り入れ、安全性と快適性を確保した公園を創り出し、さらなる活用の促進を図ることが重要である。また、現在も遊歩道の一部に未整備の箇所が存在するため、動線を確保するためにも整備が必要である。</p> <p>環境面の保全と歴史文化の啓発…地域に存する豊かな水や緑等の環境について、次代に引き継いでいけるよう保全と創出を一層推進していく必要がある。また、本地域は「中山道の宿場町」として栄えた歴史文化的背景があり、そのことを対外的に周知することが重要である。</p> <p>本地域の歴史的資産の保存活用…「養蚕と絹のまち本庄」を象徴する、国登録文化財の建造物や、周辺に残る他の歴史的・文化的建築物等が、民間開発等により消滅することが危惧されているため保存し、地域の交流拠点施設として活用を図る必要がある。</p>
<b>将来ビジョン(中長期)</b>
<p>豊富な地域資源を適正に保全・活用し、地域の活性化を目指す。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況の項でも記したとおり、本地域は市内においても特に豊富な地域資源(市民の憩いの場となる公園、運動施設、良好な自然環境、歴史等)が存し、それらを保全、再生、活用するための様々なプランを策定している経緯がある。これを地域住民と共に一つ一つ形にしていくことで、更なる地域の活性化を果たす。</p> <p>本事業の核となる旧市民プールの再生及び公園再生にあたっては、地域の小学校や保育所の児童や園児、並びにその父兄、各種スポーツ団体、福祉団体等の意見を伺いながら、各施設の受益者にとって快適に利用でき、魅力ある形となるよう事業を推進する。</p> <p>水や緑といった自然環境や地域の歴史文化についても、これまでの種々の取り組みに加え、本事業による公共下水道の整備推進により水環境への負担を軽減することや、公園への樹木植栽等を通じ、緑環境の向上を図る。また、歴史文化等の啓発看板等を設置することで、確実に次代へと引き継いでいく。</p> <p>本事業により整備する施設については、各種まつりやイベント等の会場としても活用することを計画しており、市民の交流と憩いの場所として、また、七福神や近隣文化財の散策コースの中継点としての活用を図る。</p>

<b>目標を定量化する指標</b>								
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値		目標値	
			再生事業の実施によって、公園の体育施設利用がどの程度促進されたかを、利用人数の推移によって検証する。	市民に親しまれ、魅力ある環境を整備することで、新たなイベント等の実施や既存のイベントの参加人数の増を見込む。この検証を通じて、活性化がなされたかを検証する。	94167	H20	100000	H26
地域内の体育施設の年間利用人数	人/年	既存の体育施設と市民プール跡地に関連事業にて整備するフットサル場の年間利用状況						
公園で展開される各種イベントの参加人数	人/年	公園内で実施される各種イベントの参加人数			14635 (若泉公園桜まつり +本庄公園まつり)	H20	18000	H26
元小山川における水辺のサポーター登録団体数	団体	埼玉県が進める彩の国リバーサポート制度(水辺のサポーター)に登録し、元小山川における河川愛護活動を行う団体数			1	H21	2	H26

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針①(旧市民プールの再生による市民一人1スポーツの推進)</p> <p>・若泉運動公園の中心施設であった旧市民プールについては、本交付金事業にて既存の施設の解体撤去をした後、駐車場再整備や、ベンチ、水飲み、植栽等を初めとする周辺の環境整備を行い、関連事業によりフットサル場を整備することで、新たな市民のスポーツの拠点とする。また、整備後には本施設の活用を川淵三郎塾や各スポーツ団体と共に市民等に対して働きかけることで、市民一人1スポーツを推進する。</p>	<p>○公園(基幹事業／若泉運動公園再整備事業)</p> <p>○まちづくり活動推進事業(提案事業／地域再生ワークショップ事業)</p>
<p>整備方針②(リバーサイドコンピネーションパーク整備計画のコンセプトを踏まえた安全かつ快適な公園環境づくり)</p> <p>・各公園の再整備にあたって、トイレ、園路等をユニバーサルデザインの観点を取り入れながら整備、改築をする。これによって障がい者や高齢者、ベビーカー利用者等、現状では公園を使いにくい方々にも配慮した公園とする。なお、園内の遊具については、平成21年度中に、地域活性化経済対策臨時交付金を活用し、市内全域の老朽化した遊具を更新しており、本地域内の公園においても、新たな遊具が設置されている。また、市民プールの再整備にあたっては、AEDや防災用ベンチ等を設置し、安全に配慮するほか、駐車場に障がい者用スペースを設ける。また、整備後には市の広域避難場所に指定し、災害時に備える。</p> <p>・リバーサイドコンピネーションの計画に位置付けられているものの、一部未整備となっている部分を整備し、一体的な利用ができるようにする。</p>	<p>○公園(基幹事業／若泉第1公園再整備事業)</p> <p>○公園(基幹事業／若泉第2公園再整備事業)</p> <p>○公園(基幹事業／若泉第運動公園再整備事業)</p> <p>○まちづくり活動推進事業(提案事業／地域再生ワークショップ事業)</p>
<p>整備方針③(水環境、緑環境の一層の向上や歴史文化の啓発による地域環境の充実)</p> <p>・公共下水道の整備を進め、地域住民に対して接続を推進することで、水環境への負担を緩和する。また、地域住民に対して、河川の重要性を説明し、自主的な活動が展開されるよう働きかけを行う。</p> <p>・各公園や公共施設内に地域や公園等の歴史や、「中山道の宿場町」当時の旧の地名を表示した看板を設置し、啓発に努める。</p> <p>・市に残る数少ない近代的な建築様式をもった近代化遺構としての意味合いをもつ建造物を保管し、地域交流拠点施設としての活用を図る。</p>	<p>○地域生活基盤施設(基幹事業／情報版 中山道旧地名板等設置事業)</p> <p>○地域創造支援事業(提案事業／本庄公共下水道事業(下水道国庫補助対象外管きよ))</p> <p>○まちづくり活動推進事業(提案事業／地域再生ワークショップ事業)</p> <p>○既存建造物活用事業(基幹事業／旧本庄商業銀行煉瓦造倉庫活用事業)</p> <p>○まちづくり活動推進事業(提案事業／駅北地域まちづくりワークショップ事業)</p>
<p>その他</p>	
<p>○関連事業について</p> <p>本市と早稲田大学が協働連携に係る包括協定を締結していることに関連して、平成21年にサッカーJリーグ初代チェアマンである川淵三郎氏を中心として、市のスポーツ振興を考えることを目的とした「川淵三郎塾」が設置された。本交付金事業との関わりとして、旧市民プールの解体及び環境整備後に、フットサル用のグラウンドをスポーツ振興くじの助成を受けて整備する予定であり、その整備方法や活用方法等についても協働しながら事業を進める。</p> <p>今回の再整備対象である若泉第1公園並びに第2公園を含め、市内の公園には、老朽化が進行した遊具が多くあり、平成21年度中に地域活性化経済対策臨時交付金を活用して、大規模な遊具更新事業を実施している(若泉運動公園は対象となる遊具がないため除外)。このことに加えて、本交付金事業による園路やトイレ、照明灯等の再整備を実施することで、遊具も含めた公園全体の再生が図られることとなる。</p> <p>また、水環境の改善等についても、地域住民を中心とした元小山川流域生活排水対策推進協議会が主体となり、河川の清掃活動や環境パネル展の開催するなど活動を展開している。平成13年からは、埼玉県第二期水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンスⅡ)の対象河川として指定され、水質向上に取り組んでいる。その他にも、市民団体が本庄ふるさとフラワーパークにて、公園内の湧水を活用した埼玉県の魚である「ムサシトミヨ」の移植試験を行うなど、本地域においては水をテーマにした活動が様々展開されている。緑に関する取り組みも、市の事業として、埼玉県の「彩の国緑の基金」を活用し、20、21年度に元小山川沿いに市民と共にアジサイの植栽を行っている。</p> <p>本地域では、その恵まれた環境から大小様々なイベントが実施されているが、中でも大規模なイベントとして、平成21度から市内でも有数の桜の名所である若泉公園一帯の桜を觀賞するとともに市民の交流を深める目的で「若泉公園桜まつり」を、平成19年度からは「皆の公園で遊ぼう」をテーマに、市民との協働による花壇づくりや、昔からの竹馬やペーゴマ等遊びの体験を中心とした「本庄公園まつり」が実施されている。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について</p> <p>目標達成に向けた各種事業の円滑な進行にあたっては、関係部署間の調整会議を随時実施し、情報共有と意見交換を密に図っていくことに加え、広報誌やホームページ等を活用して地域住民への積極的な情報提供を行う。また、ワークショップ等を適宜開催して地域住民との連携を取っていく。</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>本事業の実施にあたっては、地域住民の積極的な関わりを期待し、情報提供、情報共有、意見交換を図れる場を適宜設けて行く。これを通じ、地域住民の地域の自然、歴史の保全や啓発に対する自発的な活動意識を醸成し、事業完了後も継続的、あるいは新たな活動を地域主体で展開できるような環境づくりをサポートしていく。</p>	





都市再生整備計画の区域

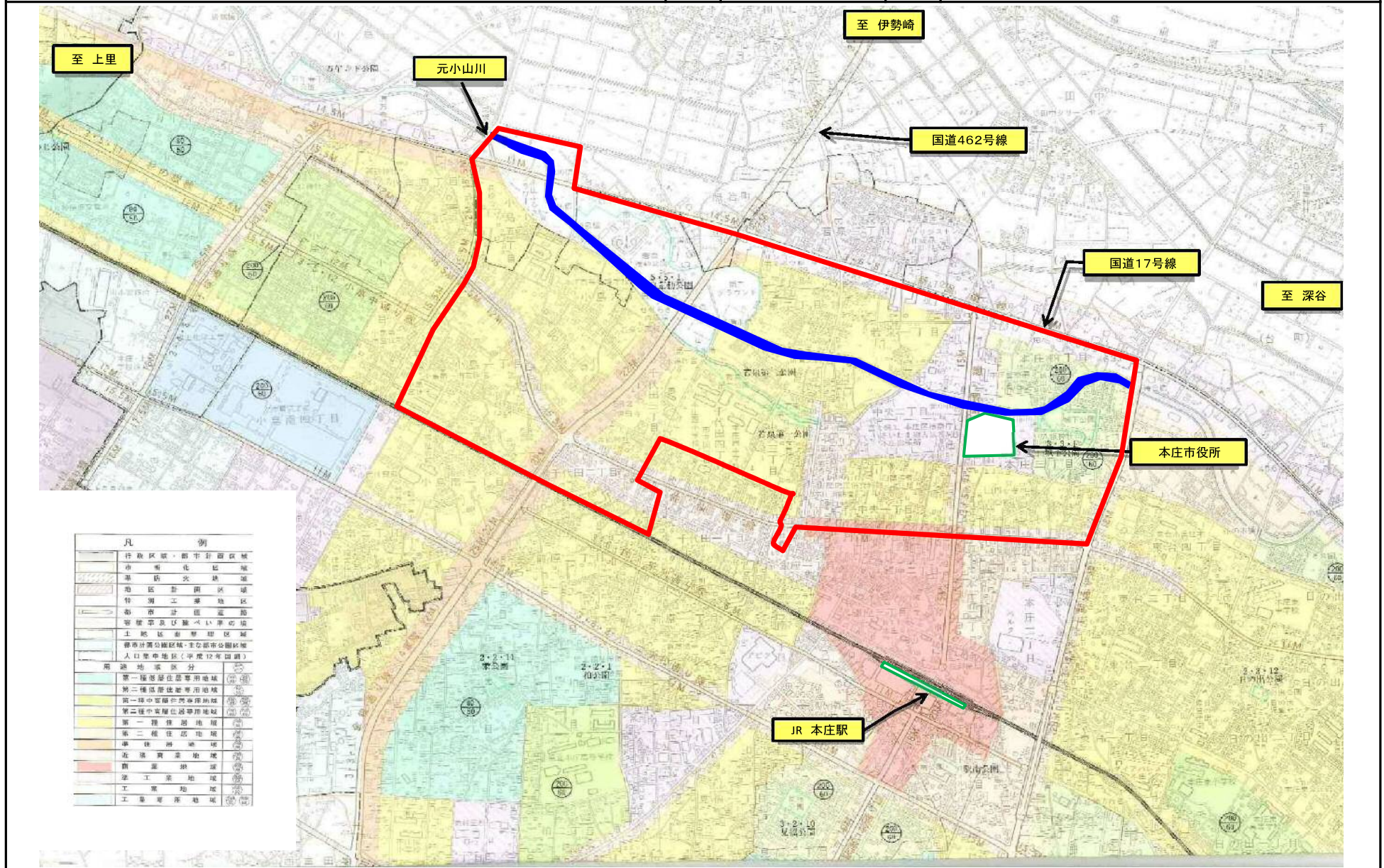
若泉地区

面積

173 ha

区域

本庄市若泉外





### 若泉地区(埼玉県本庄市) 整備方針概要図

目標	豊富な地域資源を活用した活力に満ちた現代版「若泉の荘」の創出	代表的な指標	地域内の体育施設の年間利用人数	人/年	94167 (20年度)	→	100000 (26年度)
			公園で展開される各種イベントの参加人数	人/年	14635 (20年度)	→	18000 (26年度)
			元小山川における水辺のサポーター登録団体数	団体	1 (21年度)	→	2 (26年度)

